

令和8年3月31日

世田谷区教育委員会様

世田谷区立桜丘中学校
校長 山本 武

令和7年度の改善方策に基づく改善結果について

標記の件、下記のとおりご報告いたします。

◆令和7年度の重点目標◆

目指す学校像…安心・安全で安定した学校

- ①学習指導要領の趣旨に基づき、キー・コンピテンシー育成を重視した学校
- ②生徒に実質的な活動の場を与え、主体的に判断・実践し、自立心を伸長する学校
- ③生徒が互いに思いやり、自他の生命及び人権を尊重する学校
- ④地域的な特色を生かした創造的な教育で教育課題に果敢に対応する学校

学校運営の基本方針

- 基本方針1：確かな学力を育む教育の推進
- 基本方針2：豊かな人間性を育む教育の推進

(1) 確かな学力を育む教育の推進

◎令和6年度末に掲げた、令和7年度の改善方策

- | |
|--|
| <p>1 学習指導の推進</p> <ul style="list-style-type: none">①学習指導要領の趣旨に則った意図的・計画的な指導の実施②基礎的な知識・技能の習得を目指した指導の充実… R7最重要
※ラーニング・ピラミッドの「経験する」「教える」を中心に据えた学習の展開③グローバル人材としての能力を高める指導の充実④SDGsの理解の充実と実践力の向上⑤各種テスト結果を活用した指導の実施
※全国学力・学習状況調査 Q U N I N O 定期テスト 他⑥学習意欲の向上を図る指導の充実 ※個性・創造力の伸長⑦探究的な学習の実践と思考力・判断力・表現力の伸長
※情報活用能力の伸長
※探究的な学習の実践と評価…自己理解・自己啓発⑧体力向上・健康教育・性教育の充実 ※感染症 がん教育⑨不登校生徒などに対する「学習の機会」の充実 |
|--|

○改善策に対する回答について

- ①職員会議時に現行及び次期学習指導要領のポイントについて情報提供を行った。年間指導計画に則り、授業を行うことができた。また、例年通り保護者会で学習評価の説明を実施した。さらに、学校だよりでの通知表の見方を提示した。学習評価の理解は深まったと考える。
- ②ラーニング・ピラミッドにおけるアクティブラーニングの定義について教員に学ばせた。また、これからの学習指導の在り方についてデジタル活用と探究的な学習についての情報提供を行い、主体的・対話的で深い学びの実施を意識させた。生徒からの探究的な学習の実施状

況に関する肯定的な評価も上がった。

- ③ E S A T - J Y E A R 3 の結果は、大幅に上昇し、A・B評価の割合は約9割となった。音声言語重視の学習やキャリア教育と関連した国際理解教育を展開したことにより、世田谷区の海外派遣事業に申し込む生徒数も大幅に上昇した。外国語を学び、コミュニケーションツールを獲得して、国際社会で生きることについて考える生徒が増加した。
- ④ 自然環境学習や災害に関する学習を通して、持続可能な社会の在り方について考えを深めさせる学習を行った。学校行事と関連させて、各種レポートの作成について実施し、教科横断型の授業を行った。学校行事の生徒の満足度は高いものがあり、また、世田谷区の子ども権利条例の施行に伴い、修学旅行の行き先を生徒自身が考える取り組みを行い、一層の学校行事に対する関心を高めさせることができた。
- ⑤ 各種テストの結果を分析し、生徒に還元したり、今後の学習方略について考えさせる活動を行ったりすることができた。特に、今年度も第1学年では認知能力検査に取り組み、面談時にも保護者へ個々の学習方略について具体的な提案ができた。全国学力・学習状況調査の結果は、東京都の平均を上回った。
- ⑥ 学力を高めるために必要な非認知能力として、「自制心とやり抜く力」について、焦点を当て校内研究を進めた。定期的に生徒の状況をアンケートで把握し、本校生徒の特徴として「自信感情は、低くないが、自己調整学習の意欲に課題」が見えた。学ぶことの意義や進路の自己実現を図るための計画の立案などを具体的な手だてとして、学びへの関心を高めていく方向性を確認することができた。
- ⑦ 保護者会や朝礼時に、生徒・保護者に「探究的な学習」の意義を伝えた。また、夏季休業中の総合的な学習の時間により、自身の学習が探究的な学習のフロー（課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ）の何にあっているのかの理解を図った。授業での実践や生徒自身の学習方法から、各種学力調査における観点2（思考・判断・表現）の問題の正答率も向上している。
- ⑧ 体力テストの結果の分析を行い、学校だよりで紹介した。一部の学年は体力テスト結果の向上傾向が見られた。また、世田谷区委員会と連携した性教育を実施し、生徒自身にも性の問題や自分の生き方について考えさせることができた。反面、わいせつ行為に関する生活指導上の問題も生じており、継続して指導を行うことが必要である。
- ⑨ 不登校生徒の出現率は、令和6年度と比較し横ばいであった。しかし、不登校巡回教員の配置により、どこともつながっていない生徒の割合は改善した。別室登校の在り方を見直し、学習できる環境を整え、定着した。次年度に向けたプログラムの改善や環境整備もあらためることができた。

(2) 豊かな人間性を育む教育の推進

◎ 令和6度末に掲げた、令和7年度の改善方策

1 人権教育の充実

① 自他の人権と生命尊重の精神の醸成（多様性理解）

※ ポジティブ行動支援の浸透と実践…R7最重点

② 言語環境の整備と適切な言葉遣い（挨拶）の指導の充実

2 道徳教育の充実

① 道徳教育の重点項目の設定

「克己と強い意志」「思いやり 感謝」「相互理解 寛容」「よりよい学校生活 集団

生活（ルールの確立とリレーシヨンの形成）」

3 生徒指導の充実（プロアクティブ重視）

- ①自律を促す指導の充実
- ②ポジティブ行動支援の浸透と実践… **R 7 最重要**
- ③ボランティア活動の充実・促進
- ④いじめ対応の確立と計画的な実践… **R 7 最重要**
- ⑤レジリエンスの醸成
- ⑥情報モラル教育の充実 ※BYOD ガイドラインの廃止… **R 7 最重要**
- ⑦教育相談体制の確立 不登校対応の充実
- ⑧安全教育・安全指導に関する指導の充実
- ⑨「自制心・やりぬく力」の伸長… **R 7 最重要**

4 キャリア教育の充実

- ①自己理解・自己啓発を図るための指導の推進
- ②社会における生き方を考える指導の推進（行動力）
- ③責任感を醸成する指導の推進 ※リーダーシップ教育
- ④進学指導の推進… **R 7 最重要**
- ⑤キャリアプランの作成と実践と活用（自分の生き方の目標設定と振り返り）

5 特別支援教育の推進

- ①校内委員会の在り方の検討
- ②生徒理解の促進
- ③専門性向上のための研修の実施

○改善策に対する回答について

1 人権教育の充実について

- ①「凡事徹底と相手意識」を合言葉として、校内にその言葉の意味を浸透させた。ボランティア活動に携わる生徒を視覚的に分かるようにしたことで、参加者が増加した。また、挨拶をする生徒、責任を果たすことを意識している生徒が増えたりするなど、成果を上げている。
- ②本校の生徒指導の根幹としてポジティブ行動支援の生徒指導法を取り入れた。「時間を守ること 挨拶をすること 責任を持って行動すること」の3点を今年度も意識させた。年度末には振り返りを行い、生徒の肯定的な回答が増加傾向にある。着実にこの実践は浸透している。

2 道徳教育の充実について

- ①4つの項目を重点化し、複数回の授業を行った。相手意識を高めるため、「寛容」をテーマに道徳授業地区公開講座を実施した。QUの結果を踏まえ、教室の中でもルールとリレーシヨンのバランスについて考え、学級の状況により、生徒への働きかけを工夫する教員の姿が見られた。

3 生徒指導の充実について

- ①進路選択や海外派遣の応募などの様子を見ると、生徒が自ら考えて、挑戦する機会は増えた。また、生活指導において生徒から意見を聴取する機会を設け、考える場面を設定した。学力を伸ばすための非認知能力（自制心・やり抜く力）と関連させ、自己のキャリアを考える活動を今年度も行った。不登校生徒も、1・2年生は減少傾向を見せ、自分や学校という社会について考える機会は多くなった。
- ②ポジティブ行動支援の生徒指導については、プロアクティブな指導と関連していることもあ

り、学校内に浸透しつつある。禁止することを示唆するワードを言いがちな教員もいることから、さらに、校内での在り方を学ばせていくことが必要である。生徒が考える活動を各学年が展開しており、区の子ども権利条例を意識した教育活動が展開されている。

- ③ボ活黒板を設置し、ボランティア募集を大きく告知したことから、ボランティア参加者は増加している。特に園芸部の活動は、他の生徒の範となった。地域との連携を進めたことにより、顔見知りの関係ができ、ボランティア活動への壁が低くなったと考える。大人が参加している姿勢を見せ、地域貢献・社会貢献の意識を高めていく。
- ④昨年度、いじめの重大事態に当たる案件があったことから、定期的な情報交換を実施した。また、年度内に学校の基本方針の改定方針を示し、教員のいじめ対策の意識を高めるよう努めた。いじめに関する発生時案は0ではないが、月1回のアンケート実施などできうる限りいじめ事案の発生について早期発見・早期対応を心がけている。
- ⑤レジリエンスという言葉が浸透させるよう、学校だよりや朝礼の講話で継続して伝えてきた。ポジティブ行動支援と絡めて、結果よりも過程を認めることを重視してきた。自分たちで考えて行動したり、難しいことに挑戦したりする生徒は増えてきている。
- ⑥今年度から、スマートフォンの校内での取り扱いについて、制限を設けた。校内でのトラブルは減少したが、家庭での利用については、わいせつ事案・個人情報関係の事案などの問題が発生した。さらに、登下校時の「ながらスマホ」を地域から指摘されることもあった。スマートフォンのトラブルには、家庭の理解と協力が欠かせない。今後も、生徒のみならず家庭への啓発も意識して行っていく必要があると考える。
- ⑦不登校巡回教員が配置となり、不登校状態にある生徒でどこともつながっていない家庭は、大幅に減少した。教育相談体制については、年度当初や学期末・学期初めに学校だよりを通じて連絡先を周知した。学校関係者評価アンケート（生徒対象）の結果からも、「先生は相談しやすい」の質問項目に対する肯定的な評価は、上昇した。
- ⑧安全指導・安全教育については、定期的な避難訓練や計画的な指導を月1回実施した。引き取り訓練や不審者が侵入した際の対応、また、区教育委員会から貸与されたヘルメットを利用した避難訓練など、昨年度と比較してバリエーションを増やした対応を行った。生徒の意識も高まり、訓練がスムーズに行われ、地震発生時にも避難行動をとる生徒が多くなった。
- ⑨区教育委員会が非認知能力の育成・伸長を掲げていることから、本校では学力向上に有効とされる「自制心・やり抜く力」に焦点を当てた指導を行った。特に、ポジティブ行動支援と絡めて「挨拶・時間・責任感」の3つの柱を徹底し、学期ごとの振り返り活動を行った。全国学力・学習状況調査の結果やE S A T - Jの結果も良好であったことから、成果は上がっていると考えられる。

4 キャリア教育の充実について

- ①本校の総合的な学習の時間の1つの柱は、自己理解とキャリア発達を促すことをテーマに展開している。1年次より進路指導を行い、進路実現への意識を高めるよう努めている。学校関係者評価アンケート「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」の肯定的評価も8割を超え、進路実現への意識は高まっていると考える。
- ②学校の教育理念である「凡事徹底」と「相手意識」は、言葉として校内に浸透している。卒業式など、場を考えた行動をとる生徒が確実に増えている。学習面でも、答えを知っていることよりも、正解が一つではない場面でのどのように考えるのかが重要視されていることから、探究的な学習にシフトした学習を展開している。今後も、生徒たちが自ら課題把握をし、解決策を考える指導の充実を図る必要があると考える。
- ③区の子ども権利条例から生徒が意見を表明する機会を設定した。学期末の振り返りや、修学旅行の行き先などを考えさせた。社会においても責任を果たすことは信頼を醸成することか

ら、自らの役割を全うさせることや計画・実行の意識を高める取り組みを継続していくことが必要である。

- ④ 3年次には進路選択という現実に向き合うため、進学指導については、1年次から上級学校調べを行い、自分に合った上級学校のイメージをもたせるよう取り組んだ。また、望ましい職業観を醸成するために、2年次の職場体験では新たな職場体験先を設けるなどの工夫も行った。今後も進路意識を高め、信頼される社会人像を抱かせ、自身の進路実現を図る取組を充実させていく。
- ⑤ キャリア・パスポートを活用して、自身の学校での取組の成果を振り返り、自身の成長を確認した。また、継続的な進路指導を行い、進路実現に向けた行動を促した。学校関係者評価アンケート「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある」の肯定的な回答は85%を超えており、学校の取組は浸透している。今後の社会は、複雑な社会を迎えることも予想できることから、さらに、自己の能力の向上を図ろうとする意志を育むよう努めていく。

5 特別支援教育の推進

- ① 特別支援教育校内委員会においては、生徒の情報交換だけに終わらず、校内体制の改善にかかること、別室指導の充実に関すること、支援スペースの改善に関することなどを継続的に協議し、校内体制の改善を図った。また、令和8年度からの自閉症・情緒障害特別支援学級の開設に伴う準備を早い段階から行うことができた。
- ② 生徒理解に関しては、日常的な成果観察の他に、定期的な面談や月1回の生徒間アンケート調査を実施した。生徒と関わる時間の確保や相談先を定期的に提供したことにより、学校関係者評価アンケート「先生たちは、生徒が相談しやすい」の肯定的な回答は約80%となり、成果を上げることができた。
- ③ 専門性向上のために、特別支援教育コーディネーターが生徒観察をし、学級担任などに助言できるシステムを構築した。また、定期テストの合理的配慮について、職員に周知し、個々の生徒の対応力向上に努めた。ただし、さらに、生徒理解を深めるとともに、生徒の発達に関する専門性を身に付けることも必要である。

① 学習指導の推進

【修正例 1】①学習評価の理解

修正前

学習評価の理解は深まったと考える。

修正案（客観性を高める）

保護者会での説明や学校だよりでの周知を通して、学習評価の理解は確実に浸透している。

（※可能であればアンケート数値を入れるとさらに明確になります。）

【修正例 2】②アクティブラーニング

修正前

主体的・対話的で深い学びの実施を意識させた。

修正案（主体を明確に）

教員が主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善に取り組むよう働きかけた。

【修正例 3】③ESAT-J

修正前

国際社会で生きることについて考える生徒が増加した。

修正案（具体化）

外国語を通して国際社会とのつながりを意識し、将来の進路と結び付けて考える生徒が増加した。

【修正例 4】⑤学力調査

修正前

全国学力・学習状況調査の結果は、東京都の平均を上回った。

修正案（評価として明確化）

全国学力・学習状況調査では、全教科で東京都平均を上回る結果となり、学力向上の成果が見られた。

【修正例 5】⑥非認知能力

修正前

方向性を確認することができた。

修正案（曖昧さを削除）

学ぶ意義を明確にし、自己調整学習を促進する具体的な取組を次年度も継続する方針を決定した。

【修正例 6】⑨不登校対応

修正前

次年度に向けたプログラムの改善や環境整備もあらためることができた。

修正案（意味を明確に）

次年度に向けて支援プログラムを見直し、より継続的に学習できる体制を整備した。

② 人権教育・生徒指導

【修正例 7】ポジティブ行動支援

修正前

着実にこの実践は浸透している。

修正案（根拠を意識）

生徒アンケートの肯定的回答の増加からも、取組は着実に定着していると判断できる。

【修正例 8】いじめ対応

**修正前】

いじめに関する発生時案は 0 ではないが、

修正案（誤記修正＋明確化）

いじめ事案の発生はゼロではないが、

修正前

できうる限りいじめ事案の発生について早期発見・早期対応を心がけている。

修正案（具体性）

月 1 回のアンケートや定期的な情報交換を通して、早期発見・早期対応に組織的に取り組んでいる。

【修正例 9】情報モラル

修正前

家庭の理解と協力が欠かせない。

修正案（学校としての姿勢を明確に）

家庭との連携を一層強化し、情報モラルに関する啓発を継続的に行う必要がある。

【修正例 10】レジリエンス

修正前

自分たちで考えて行動したり、難しいことに挑戦したりする生徒は増えてきている。

修正案（報告書らしく）

自ら課題を設定し挑戦する姿勢を示す生徒が増加している。

③ キャリア教育

【修正例 11】②探究的学習

修正前

探究的な学習にシフトした学習を展開している。

修正案（表現の整理）

正解が一つではない課題に取り組む探究的な学習を中心に授業改善を進めている。

【修正例 12】⑤まとめ部分

修正前

さらに、自己の能力の向上を図ろうとする意志を育むよう努めていく。

修正案（具体性を加える）

自己の能力向上に主体的に取り組む姿勢を育成するため、振り返り活動と個別面談を一層充実させていく。

全体改善のポイント（重要）

① 「～することができた」を減らす

→「実施した」「改善した」「定着している」「向上した」など断定型へ。

② 「～と考える」を減らす

→根拠（数値・アンケート・行動変容）と結びつける。

③ 一文を短くする

1 文は 60～80 字程度を目安に。

④ 成果＋課題＋次年度方針 の三段構成にすると、報告書として強くなる

例：

成果：〇〇は向上した。

課題：一方で△△が課題である。

方針：次年度は□□を強化する。

もしご希望であれば、

- ◆ 「教育委員会提出用の完成版」に整えた全文リライト
- ◆ 「学校関係者評価用」に簡潔化した要約版
- ◆ 数値を入れた“評価に強い文章”への格上げ版

どの用途向けに仕上げますか？